



信州*岡谷
— SHINSHU OKAYA —

かつて世界一位の生糸生産地

シルク岡谷の絹産業遺産

(近代化産業遺産群)



シルク岡谷とは…

生糸は、安政6年(1859)に横浜港が開港し、外国との貿易を本格的に開始してから昭和9年までの75年間、常に最も多く輸出された商品でした。明治元年から昭和9年まで、生糸が日本の輸出総額に対して占めた割合は約36%。現在の主要な輸出品である自動車の14.5%(2012年)と比較しても、製糸業がいかに日本の経済を支え、産業の近代化を推進する大切な役割を果たしてきたのかがわかります。

明治初年、岡谷には、全国の中でもいち早く、新しい生糸づくりを志す製糸家たちが次々と登場しました。中山社を創業した武居代次郎らの活躍によってヨーロッパの技術をコストダウンし実用化した諏訪式繰糸機が明治8年に開発され、この後に工場生産体制が整えられていきます。こうして岡谷の製糸家たちは、独自の知恵や創意工夫の力をひとつに結集し、世界の市場からの要望にあわせた生糸づくりの技術と技法を磨き上げていきました。その結果、明治20年代には、岡谷で生産された生糸は日本を代表する銘柄(信州上一番)に成長し、岡谷に生糸の一大産地が形成されるようになったのです。そして、資本を蓄えた岡谷の製糸家たちは積極的に全国進出を図り、経営を拡大していくことになります。

大正期になると、日本の輸出生糸は世界の生産量の過半数を超えるようになりました。その中でも、全国に発展した岡谷の製糸家によって生産された輸出生糸は、最盛期には日本全体の11%(大正13年)を占めるなど、岡谷は日本の生糸輸出を牽引したのです。

なぜ岡谷に製糸業が栄えたのか? とよく問われます。それは、製糸に使う水が天竜川をはじめ豊富にあったこと、繭保存に適する乾燥気候だったこと、原料の繭を近隣から得やすかったこと、諏訪式繰糸機など技術開発者がいたこと、優れた経営者がいたこと、大勢の工女さんなどの労働力が得られたこと、生糸商人や金融関係の支えがあったことなど、それら一つが欠けても、岡谷で製糸業は成り立ちませんでした。



富岡製糸場で使われていたフランス式繰糸機等が岡谷蚕糸博物館にあるのは、なぜ?

明治政府は明治5年(1872)10月に、当時の製糸技術の先進国であったフランスから繰糸機300釜を輸入し、操業を開始しました。そのうちの2釜を岡谷蚕糸博物館が、保存・展示しています。世界で唯一の大変貴重な繰糸機です。

富岡製糸場は官営として21年間営業した後、明治26年に民間へ払い下げられ、昭和14年には当時日本一の生糸生産量を誇った片倉製絲紡績會社(前身:諏訪郡川岸村(現岡谷市)片倉組)が受け継ぎ、昭和62年操業を終えるまでの48年間、富岡製糸場で操業してきました。昭和17年に、フランス式繰糸機を多条繰糸機へ入れ替える時に、その内の2釜だけは保存しておいたのです。

翌昭和18年に、片倉工業(株)社長三代片倉兼太郎は、上諏訪の「片倉館」の隣に「懷古館」を建設し、それまで収集した美術品やフランス式繰糸機をはじめとする機械類を保存・展示してきましたが、懷古館を諏訪市へ寄贈するにあたり、昭和33年、収集していた製糸機械類・資料を岡谷市へ寄贈・寄託しました。岡谷市では、地元製糸業者でつくる諏訪製糸研究会等の協力を得て、蚕糸の歴史を永く後世に伝えるため、昭和39年に「市立岡谷蚕糸博物館」を建設し、フランス式繰糸機をはじめとする製糸機械類・資料を、保存・展示してきました。



フランス式繰糸機



近代化産業遺産群

岡谷市では、市内の製糸にかかわる15件の産業遺産が、『「上州から信州そして全国へ」近代製糸業発展の歩みを物語る富岡製糸場などの近代化産業遺産群』として、平成19年に経済産業省より認定されました。



1

鶴峯公園

初代片倉兼太郎は製糸工場で働く低年齢の従業員への教育が必要と感じ、大正6年ここに私立片倉尋常小学校を開校した。後にツツジが植えられ、現在では、中部日本一のツツジの名所として知られている。

常時
見学可

2

旧片倉組事務所

明治43年に建築された大製糸会社片倉組の事務所。初代、二代片倉兼太郎の活躍の拠点となる。現在は片倉工業株式会社の印刷部を継承した中央印刷株式会社の事務所として使用されている。国登録有形文化財。

外観のみ
見学可

3

旧林家住宅

イチャマカ
一山力林製糸所の初代林国蔵の住宅。主屋と離れの座敷、茶室、洋館に分かれ、主屋の南側には繭倉庫の形式をとどめる土蔵が並ぶ。「幻の金唐草紙」と呼ばれる壁紙が貼り巡らされている和室は一見の価値あり。国指定重要文化財。

見学可

製糸会社社長の林国蔵の居宅。解説付の見学ができます。
■入館料 おとな570円 こども260円
■休館日 毎週水曜日、祝日・振替休日の翌日、12月29日～1月3日
■開館時間 9:00～16:30(12月～2月末は16:00まで)

お問い合わせ：旧林家住宅 TEL.0266-22-2330

4

成田公園

大正6年、昭和天皇の立太子の記念に造られる。製糸工場の従業員の慰安の地として利用された。製糸業発展に大きく貢献した第十九銀行頭取黒澤鷹次郎の銅像がある。

常時
見学可

5

丸山タンク

大正3年に市内塚間川の西方一帯の製糸工場への給水のために建設された。天竜川にポンプを設置し、導管により水を揚げた。現在は、丘の上に金属製タンクの台座としていた三重円筒型(壁の厚さ約61cm)の巨大なレンガ積が残されている。

外観のみ
見学可

6

旧山一林組製糸事務所・守衛所

明治12年に創業した山一林組の事務所。建築は大正10年。山一林組は昭和5年に当地方第4位の製糸会社に発展する。製糸全盛期をしのぶ数少ない建物。戦前の日本における製糸労働者最大の争議である「山一争議」の舞台になったことでも有名。1階には、岡谷絹工房がある。国登録有形文化財。

岡谷絹工房 岡谷絹の機械の見学・体験ができる工房。各種絹製品も販売しています。(電話にて要予約)
■体験料金 2,000円(約60分)
■開館時間 毎週火・土・日 9:00～16:00

お問い合わせ：岡谷絹工房 TEL.0266-24-2245

体験可

7

株式会社金上繭倉庫

岡谷に残る数少ない繭倉庫。建築年代は明治期と推定される。旧サステイ中村補助製糸所の繭倉庫であったが、現在は、株式会社金上が譲り受け、倉庫として大切に使用されている。

外観のみ
見学可

8

蚕霊供養塔(照光寺)

岡谷の製糸業関係者が、蚕糸業の発展を祈念するために昭和9年に照光寺に建立した供養塔。世界的不況の時代に、製糸業関係者18人が発起人となり、村民や工女さんなど数万人から寄付を集め、蚕の霊を慰めた。木造馬鳴菩薩坐像を本尊とし、毎年4月29日には蚕霊供養塔例大祭が行われる。市指定文化財。

外観のみ
見学可



岡谷蚕糸博物館(シルクファクトリー)

昭和39年に開館し、平成26年8月1日、製糸工場が併設する世界に類のない博物館として生まれ変わった。

■入館料 一般 500円 中高生 300円 小学生 150円
■休館日 毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
■開館時間 9:00～17:00
(製糸工場・まゆちゃん工房 9:00～12:00、13:00～16:00)

片宮坂製糸所 工場見学

製糸全盛期から変わらない諏訪式繰糸機、日本古来の上州式繰糸機が稼働しているところ等を見学できる。
まゆちゃん工房(体験)
まゆ工作やブチはたおりの体験ができる。



お問い合わせ：岡谷蚕糸博物館 TEL.0266-23-3489

9

岡谷蚕糸博物館所蔵資料

日本製糸業近代化を担った歴史と精神を伝える製糸経営資料、写真資料や岡谷市鳥瞰図など30,000点を超える資料を所蔵している。また、国内に唯一現存するフランス式繰糸機や、明治初期に岡谷の武居代次郎が開発した諏訪式繰糸機など貴重な機械類を保存・展示している。

10

旧蚕糸試験場所蔵機械等

昭和22年、農林省蚕糸試験場岡谷製糸試験所として設置され、日本における製糸技術研究の重要な拠点となった。自動繰糸機を中心に、繭乾燥から製糸まで一連の生産機械が残され、多糸繰糸機等が認定を受けている。多糸繰糸機は現在も製糸工場内で稼働している。

見学可

11

旧岡谷上水道集水溝

岡谷の製糸業の最盛期に、飲料水や工業用水の需要が増え、また衛生面からも上下水道建設の要望が高まったことから造られた集水溝。昭和63年まで利用されていた。ものづくりのまち岡谷の人々の生活を支えた集水溝として保存されている。国登録有形文化財。

外観のみ
見学可

12

旧岡谷市役所庁舎

製糸家の尾澤福太郎が昭和11年に市制施行を記念して建築・寄贈した庁舎。昭和62年まで市役所として使用され、平成27年3月までは消防庁舎として使用されていた。国登録有形文化財。

外観のみ
見学可

13

新增澤工業株式会社所蔵機械(横フライス盤)

明治29年に創業した日本に残る数少ない製糸機械メーカー。特に昭和5年から販売した「増澤式多糸繰糸機」は日本一のシェアを誇った。こうした製糸機械を生み出した切削用機械「横フライス盤」が認定を受けている。

見学不可

14

旧山上宮坂製糸所

創業は明治7年、座繰り製糸にはじまり、大正～昭和の全盛期と戦後の復興期に中規模の製糸工場として発展した。同敷地内には昭和2年に建築された事務所を始め、工場棟・再繰工場棟等一連の工場体系が残されている。

外観のみ
見学可

15

丸中宮坂製糸所繭倉庫

岡谷蚕糸博物館内で操業している株式会社 宮坂製糸所で使用している繭倉庫。宮坂製糸所は昭和3年に創業し、明治から昭和にかけて使われていた諏訪式繰糸機・上州式繰糸機・自動繰糸機などで操業が続けている。

外観のみ
見学可



A

小口薬師堂から東に伸びる通りは工女にぎわう繁華街だった。写真はだるま祭り。



B

かつての郵便局。その後建物が利用された旧市立図書館といえば、市民に懐かしい。



C

岡谷には銀行の支店が軒を並べていた。安田銀行(左[C]) 八十二銀行(右[D])、どちらも立派な構え。



D



E

吉田館の繭倉庫は高層の5階建て。製糸の発展を物語る風景や匂いは、人々の記憶のなかに残る。



F

諏訪倉庫の塚間倉庫群(明治42年創立、昭和56年まで経営)。



G

市制施行に沸く駅前広場。昭和11年。



H

中央通りのまんなか。イルフプラザの北口に立つと、当時の風景と比べることができる。



I

平野製糸共同病院(現岡谷市民病院) 明治42年に製糸業者が共同出資して従業員やその家族の診療を主とする病院を作った。こうした例は全国的にも早かった。



J

諏訪蚕糸学校(現岡谷工業高等学校) 岡谷の中等教育は明治45年の平野農蚕学校から始まった。後に蚕糸業の発展と衰退を背景に学校名と履修学科を変え、現在も岡谷の産業・教育を支えている。

あるき太郎と探るシルク岡谷

岡谷市は、日本のほぼ中央、天竜川の源流諏訪湖の出口にあり、古くから文物交流の接点として栄えました。そして明治以降、豊富な水や乾燥した気候などの恵まれた自然環境と、人々の努力と工夫によって製糸業が飛躍的に発展したまちです。



岡谷出身の童画家武井武雄の作品の画題「あるき太郎」(昭和2年)の主人公。乗り物で旅をしていた主人公が、健康のために歩くことに目覚める。さまざまな登場人物と出会い、旅することで歩くのが速くなり強くなれたと喜ぶ。



鶴峯公園



A 絲まち西回廊コース

4.7km

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------------|----------|------------|-----------|------------|-------|------------|-------|-------------|-------|-------------|----------|------------|---------|-------------|
| 岡谷蚕糸博物館 | 1.2km 徒歩14分 | 旧山上宮坂製糸所 | 1.40m 徒歩3分 | 株式会社金上上倉庫 | 2.70m 徒歩5分 | 蚕糸供養塔 | 4.50m 徒歩7分 | 旧林家住宅 | 1.2km 徒歩15分 | 丸山タンク | 1.0km 徒歩12分 | 旧岡谷市役所庁舎 | 4.50m 徒歩6分 | 岡谷蚕糸博物館 | 1.2km 徒歩14分 |
|---------|-------------|----------|------------|-----------|------------|-------|------------|-------|-------------|-------|-------------|----------|------------|---------|-------------|

B 絲まち東回廊コース

3.7km

- | | | | | | | | | | | | |
|---------|------------|----------|-------------|-------|-------------|----------|------------|-----------|------------|---------|------------|
| 岡谷蚕糸博物館 | 4.50m 徒歩6分 | 旧岡谷市役所庁舎 | 1.4km 徒歩16分 | 丸山タンク | 1.0km 徒歩12分 | 旧山上宮坂製糸所 | 5.50m 徒歩9分 | 新増澤工業株式会社 | 2.80m 徒歩5分 | 岡谷蚕糸博物館 | 4.50m 徒歩6分 |
|---------|------------|----------|-------------|-------|-------------|----------|------------|-----------|------------|---------|------------|



K

天竜川から岡谷駅南側にかけての工場群。



L

中央通り・今井新道の工場群。



M

岡谷座 御倉町に明治43年創立。岡谷地方の劇場としては最も早い。宝劇場、三沢座などとともに製糸従業員娯楽施設として人気を博した。



N

山岡岡谷製糸の選繭場 良質な原料繭を確保することが、製糸業にとっては重要であった。製糸家たちは明治期から県外へ原料繭を求めて進出していった。写真は工女一人一人の手によって繭を選り分けている様子。

シルク岡谷の礎～明治黎明期に活躍した製糸家

明治から大正、昭和のはじめにかけて、岡谷には製糸業が飛躍的に発展し、「シルク岡谷」の名が世界にとどろいた。この発展の礎は、明治黎明期に活躍した人々によって築かれた。

先進的で実用的な諏訪式繰糸機を開発



武居 代次郎 (1838～1896)

努力と知恵で創意工夫を生み出す。武居代次郎は、明治8年に中山社を9人共同で創業。イタリア式とフランス式繰糸機を折衷した廉価で実用的な「諏訪式繰糸機」を開発。これは、瞬く間に全国へと普及し各地で生糸の工場生産体制が整えられた。

日本一の製糸工場「片倉組」を創設



初代 片倉 兼太郎 (1849～1920)

世界一の製糸王国へ導く。初代片倉兼太郎は、明治11年に垣外製糸場を創業。翌年には製糸結社・開明社を設立。明治28年に片倉組を創設し、卓越した先見力と強いリーダーシップで日本を世界一の製糸王国へ導いた。勤勉儉約、堅実経営、技術重視という経営哲学は、諏訪地方の産業にも脈々と受け継がれている。

世界市場からの信頼を獲得



尾澤 金左衛門 (1833～1894)

製糸の品質管理技術が全国に普及。尾澤金左衛門は、明治12年に製糸結社・開明社を片倉兼太郎や林倉太郎とともに組織。明治黎明期、日本の製糸業は、需要増大により粗製濫造などの問題を生じていたが、共同搬送による徹底した品質管理を行い、これが全国に普及し、日本の生糸は海外市場からの信用を得るに至った。明治27年に尾澤組を創設。

先見性に富む多角的な事業家



林 国蔵 (1846～1916)

豊かな発想で製糸業発展に尽力。林国蔵は、父倉太郎が創業した一山力(イチヤマカ)林製糸場を明治19年に引き継ぎ、開明社の経営にも参画した。国蔵はまれにみる事業家で、先駆けて中国産繭の輸入に着手、製糸工場の燃料不足が問題になるや、諏訪新炭株式会社を創設。石炭の採掘を行うなど製糸業発展に大きく貢献した。国蔵の旧宅である「旧林家住宅」は国重要文化財となっている。